

保育所における保育実習Ⅰの現状と課題（１）

—養成校としての指導の重点を探る—

小 林 房 子

The Present Situation and Problems in “Nursery School Teaching Practice Ⅰ”(1)

— Exploring the Teaching Priorities in Training Schools—

Fusako Kobayashi

はじめに

近年の少子化や女性の社会進出の増加に伴い、保育所に対するニーズはより多様化してきている。

平成10年4月から施行された、改正児童福祉法では、第四十八条の三において「保育所は当該保育所が主として利用される地域の住民に対してその行う保育に関し情報の提供を行い並びにその行う保育に支障がない限りにおいて乳児、幼児等の保育に関する相談に応じ、及び助言を行うよう努めなければならない」という保育園の新しい努力義務が附加され保母（保育士）の仕事についても子供の保育に専念するだけでは済まされない状況になってきており、新しい保育実践が求められている。

このような変化の中にあって養成校としても主体性、独自性を重視しながら新しい保育実践のための具体的な対応策、よりきめの細か

い個別指導が必要になってくる。

そこで保育所実習の現状を実習生に対するアンケートの回答から探り、保育所に対するニーズにどう対応するのか課題を見つけ、今後の指導に役立てたい。

そこで本調査の目的を以下の3点におく。

- （１）春期実習における実習の段階的内容をパターン分類し示す。
- （２）自己評価Ⅰ（実習生のプロフィール、実習報告書より）により本学学生の実習態度、実習能力についての特長を示す。
- （３）自己評価Ⅱ（表4-1,2）により実習態度（心構え、研究態度、人となり、人間関係、勤務状況、環境整備）、実習能力（保育技術、指導技術、指導計画）について示す。

以上学生の実態を把握し実習内容のガイドラインを探る。また実習の事前、事後指導の重点課題を探ることを目的とする。

1. 調査の方法

実習生に対する下記のアンケート調査による。

(1) 調査対象

本学幼児教育科1年生68名

(2) 調査期日

1998年1月中旬～4月初旬

(3) アンケート内容

- ・「実習生のプロフィール」
- ・「実習報告書」
- ・「自己評価アンケート」

(4) 調査内容

アンケート内容より下記の調査を行う。

1) 実習の段階的内容(実習報告書より)

2) 自己評価Ⅰ(概括的な評価)

1. 実習態度について(実習生プロフィールより)

- ①実習の目標 ②チャレンジ
- ③期待していたこと ④不安・心配
- ⑤体力・健康 ⑥明るさ・素直さ
- ⑦言葉遣い ⑧行動力
- ⑨協調性 ⑩根気強さ
- ⑪挨拶・礼儀 ⑫掃除・美化
- ⑬気働き

2. 実習能力について(実習生プロフィールより)

- ①得意分野
- ②不得意分野のカバー
- ③ピアノ・歌の対策
- ④声の大きさ
- ⑤書く力
- ⑥話す力

3. 睡眠時間について(実習報告書より)

4. 総合評価(態度、能力)について (実習報告書より)

3) 自己評価Ⅱ(詳細評価、自己評価アンケートより)

1. 実習態度について

心構え、研究態度、人となり、人間関係、勤務状況、環境整備、保育技術a(子供への接し方)、保育技術b(子供の理解)、指導技術、指導計画a(目標)、指導計画b(内容)、指導計画c(準備)、指導計画d(主活動)

2. 実習能力について 保育技術a(子供への接し方)、保育技術b(子供の理解)、指導技術、指導計画a(目標)、指導計画b(内容)、指導計画c(準備)、指導計画d(主活動)

3. 結果及び考察

1) 実習の段階的内容について

二週間にわたる春期実習実施にあたって学生の実態に則し、実習内容のガイドラインを以下のように設けた。

〔第一週〕

見学・観察を主としながら、指導者の助手的な立場で乳幼児に直接働きかける。

〔第二週〕

見学・観察をしながら、指導者の助手的な立場で保育を体験する。更により能動的に関わるために適宜、部分実習を体験する。

図1は、春期実習期間(平均11.52日)内での実習の段階的内容の比率を示している。この図より全般的には、見学・観察のねらいを尊重しガイドラインに沿って指導してくれた事がわかる。

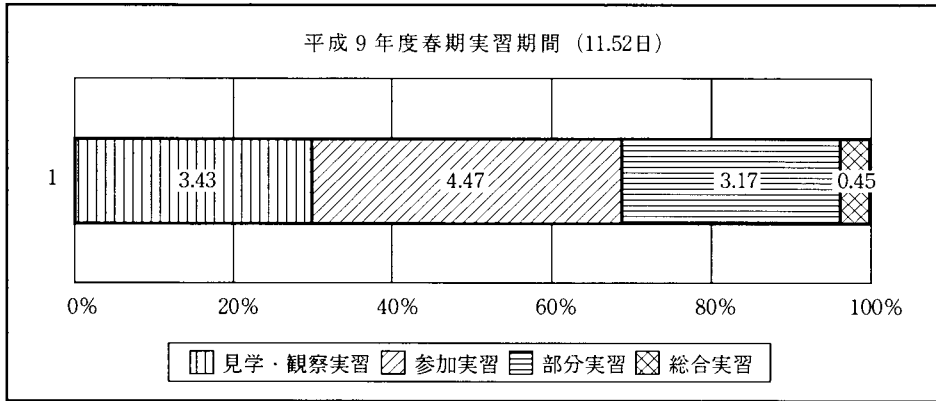


図1 実習の段階的内容の比率

実習内容の組み合わせ				パターン 名称	人数
見学・観察	参加実習	部分実習	総合実習		
○ 40.9%	○ 37.9%	○ 21.2%	—	Aパターン	22
—	○ 80.4%	○ 19.6%	—	Bパターン	13
○ 27.6%	○ 31.1%	○ 27.5%	○ 13.9%	Cパターン	12
○ 58.6%	—	○ 41.4%	—	Dパターン	10
—	○ 55.7%	○ 33.4%	○ 10.9%	Eパターン	4
○ 48.5%	—	○ 29.8%	○ 21.7%	Fパターン	2
—	—	○ 100.0%	—	Gパターン	1

表1 実習内容のパターン分類

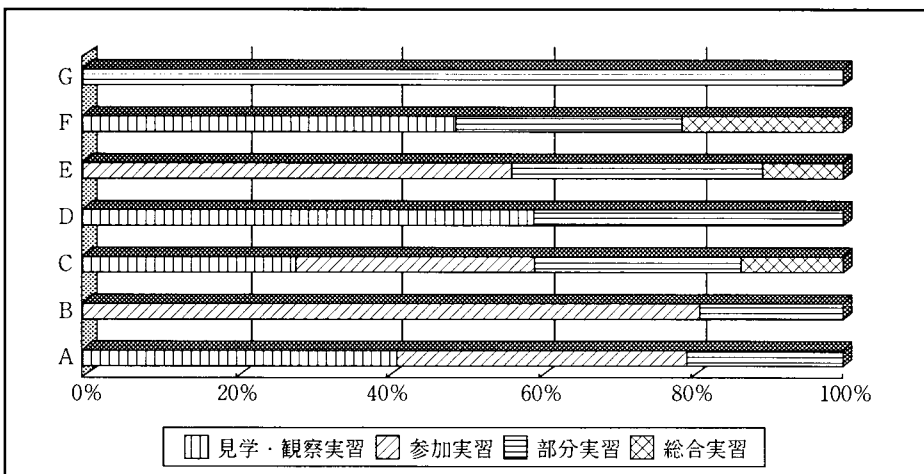


図2 パターン毎の実習内容比率

次に実習生の実習内容をパターン化したものが表1である。これは、実習の段階的内容の見学・観察、参加、部分、総合実習における個々の組み合わせをパターン化しまとめたものである。例えばAパターンは、見学・観察、参加、部分実習を体験し、それぞれの比率は、40.9%、37.9%、21.2%でありそれをグラフで表したものが図2である。

これよりB、E、Gパターンでは、見学・観察を全く経験していないことがわかった。その割合は、全体で28%であり、公立で実習した者より私立で実習した者の方が比率が高かった。逆に実習園によっては、ガイドラインの見学・観察重視の意を尊重し、各年齢、各クラスを順次巡回させ6日以上にわたり見学・観察を経験させてくれたところもあった。ここでの学生達の感想としては

- ・子供の姿、保母の関わりを良く見て観察出来た。
 - ・子供一人一人の反応の様子、特徴、興味のある事などを把握出来た。
 - ・自分の観察課題を決めて見学・観察をしたので、部分実習での指導案立案の時に色々な場面が想定出来て役立った。
- 等の感想が聞かれた。

以上の事から、養成校として見学・観察を実習の第一段階として捉え、実習生全員が体験出来る様にしたい。そのためには、見学・観察を経験させてもらえなかった園には、実習園の実情を大事にしながら良く理解、協力して頂ける様お願いしていく必要がある。

2) 自己評価 I

1. 実習態度について

表2、図3は実習態度を13項目に分けた質問項目について、「出来た」という回答に対し

て2点、「普通」を1点、「出来なかった」を0点とし、満点に対する比率を評価値として表と図にしたものである。

評価値の高かった項目は

1. 期待していたこと	81.3%
2. 明るさ・素直さ	78.4%
3. 挨拶・礼儀	76.1%
4. 実習の目標	73.9%
5. 根気強さ	71.6%
6. 掃除・美化	70.1%

の順であった。この事から、実習生は実習の意義を良く理解し、意欲的に精一杯自分を出しきった様子が見えがえる。期待していたこと、明るさ・素直さ、挨拶・礼儀については特に評価が高かった。

次に、評価が低く今後の課題となる項目は

1. 気働き	46.3%
2. 行動力	47.0%

であるが、これらについては以下のように考えられる。保育園は0歳児からの保育であり乳幼児の世話をする事が重要な内容となっている。ただ単に子供はかわいいと思うだけでなく、子供が何をしたいと望んでいるのか、又それに対し自分はどうか対応したら良いのか等、身近にいる保母さんを見習って、自分の手で、自分の身体を動かして考え、体験してみることが大切である。

これには実習生としての立場をわきまえ、それぞれに応じた行動がとれるよう自覚を持って接する様努力することが肝要である。

2. 実習能力について

表3、図4は実習能力を6項目に分けた質問項目について「出来た」という回答に対して2点、「普通」に対して1点、「出来なかった」を0点として、満点に対する比率を評価

項 目	人 数			評価値 (%)
	出来た	普 通	出来なかった	
①実習の目標は	34	31	2	73.9
②チャレンジは	20	42	5	61.2
③期待していたことは	43	23	1	81.3
④不安・心配は	28	30	9	64.2
⑤体力・健康は	33	16	18	61.2
⑥明るさ・素直さは	39	27	1	78.4
⑦言葉使いは	27	37	3	67.9
⑧行動力は	9	45	13	47.0
⑨協調性は	25	37	5	64.9
⑩根気強さは	33	30	4	71.6
⑪挨拶・礼儀は	35	32	0	76.1
⑫掃除・美化は	34	26	7	70.1
⑬気働きは	11	40	16	46.3

表 2 自己評価Ⅰ－実習態度

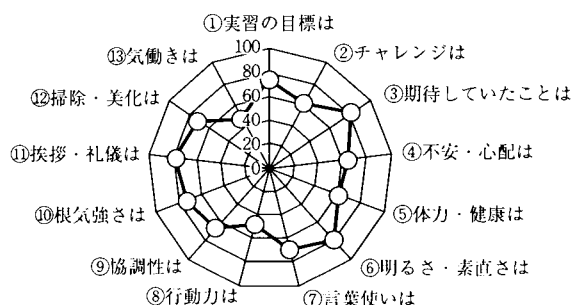


図 3 自己評価Ⅰ－実習態度

項 目	人 数			評価値 (%)
	出来た	普 通	出来なかった	
①得意分野を生かしたか	32	25	10	66.4
②不得意分野のカバーは	16	44	7	56.7
③ピアノ・歌の対策は	16	38	13	52.2
④声の大きさは	26	34	7	64.2
⑤書く力は	14	36	17	47.8
⑥話す力は	2	51	14	41.0

表 3 自己評価Ⅰ－実習能力

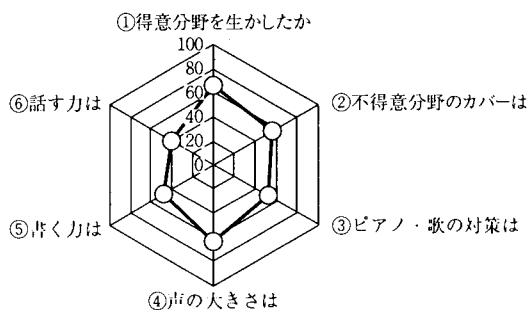


図 4 自己評価Ⅰ－実習能力

値として表と図にしたものである。実習態度に比べると全般的に力不足を感じ厳しい評価をしている。

特に評価値が低く今後の課題となる項目は

- | | |
|-------------|-------|
| 1. 話す力 | 41.0% |
| 2. 書く力 | 47.8% |
| 3. ピアノ・歌の対策 | 52.2% |

が上げられる。特に話す力、書く力が足りないと感じている点に注目したい。これは、本学だけでなく一般的な傾向でもあると思うが、ピアノ・歌の対策と同様に普段から授業の中で重点的に指導していく必要があるだろう。

3. 睡眠時間について

実習期間中の睡眠時間は図5のようになった。59%が3～4時間、22パーセントが5～6時間、3時間未満が19%とほぼ予想通りの結果であったが、実習は安易な気持ちでは出来ない、かなりの覚悟をもって臨む必要があることを理解したと思われる。

睡眠不足を補う為に

- ・実習は心身共に疲れるものであると自分に言いかせた。
- ・若い体力を十分生かすためには力み過ぎず、リラックスしてスタミナの配分を考えた。
- ・やる気が切れないよう精神力を持続させた。

等全力をあげて取り組んだ様子が感想として聞かれた。

4. 総合評価（態度、能力）について

実習での評価を実習態度と実習能力に分け、実習園からの評価と自己評価の結果をまとめたものが図6、図7である。

実習生は、態度、能力共に自己に厳しい評価

をしている。乳幼児の理解、保母としての資質、能力などについて実際に体験しさらに向上、努力目標が出来、厳しい評価になったのではないだろうか。

また実習園からの評価は好意的であった。保母としての素質、適性について素晴らしい保育者になって欲しいという願いが多く含まれているのではないと思う。

3) 自己評価II

自己評価Iを更に掘り下げ100の小項目にわたり詳細にアンケート調査を行い自己評価IIとしてまとめた。

1. 実習態度

表4-1、図8は実習態度を6つの中項目にまとめ、質問項目について「はい」という回答に対して2点、「どちらともいえない」を1点、「いいえ」を0点とし満点に対する比率を評価値として表と図にしたものである。

更に実習態度の6項目を図9－心構え、図10－研究態度、図11－人となり、図12－人間関係、図13－勤務状況、図14－環境整備として表した。

実習するにあたっては、保育者としての使命感と自覚を持って主体的に臨み、日々子供と接する中で、保育者としての喜びと将来への期待が持てたのではないだろうか。全体的に良い評価をしており、評価値の高かった項目の順位は、人間関係、人となり、心がまえ、勤務状況、研究態度、環境整備の順であった。

又、評価値が低く今後の課題であろうと思われる小項目は、

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 子供の発達に役立つ研究 | 52.9% |
| 2. 通風、採光、温度、湿度に留意 | 54.4% |
| 3. 遊具、教材、用具等の準備、点検 | |

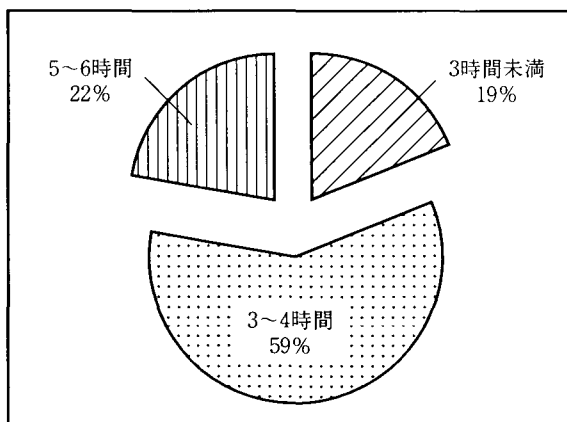


図5 睡眠時間

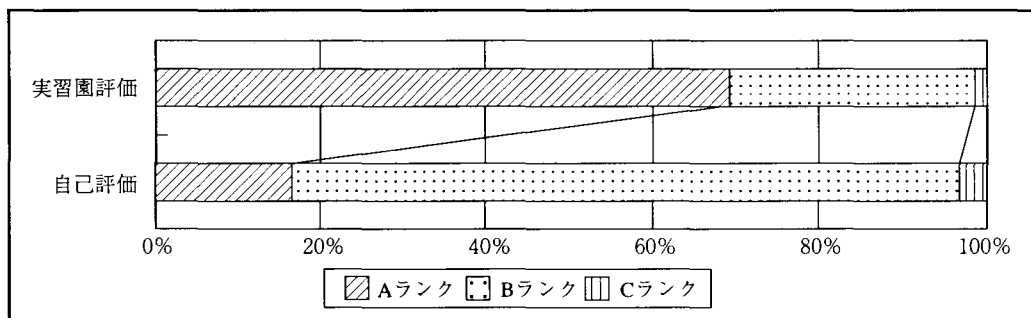


図6 自己評価Ⅰ－総合評価（実習態度）

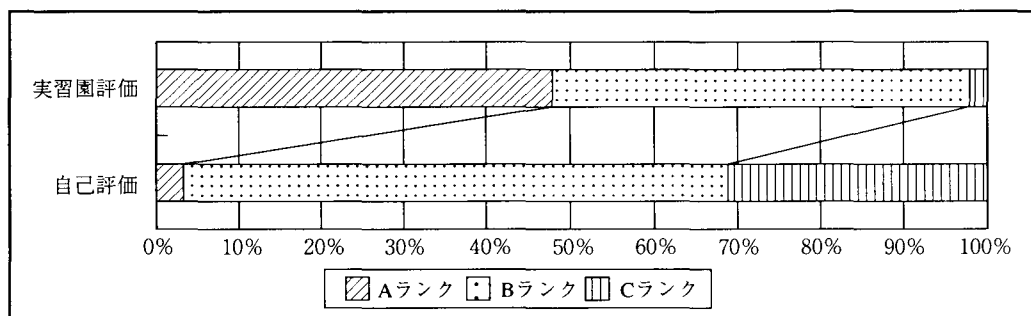


図7 自己評価Ⅰ－総合評価（実習能力）

表4-1 自己評価Ⅱ-実習態度

項 目	回 答				評価値	中項目別 評価値の 平均
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答		
1.心構え						80.7
・実習の意義を理解した上で臨んだか	43	24	1	0	80.9	
・保育者としての使命感と自覚を持って臨んだか	48	20	0	0	85.3	
・保育者としての喜びと期待を持って臨んだか	63	5	0	0	96.3	
・積極的に自主的に保育に当たったか	30	36	2	0	70.6	
・健康管理に留意し、体調を崩さことなく実習を終えたか	36	11	21	0	61.0	
・規律を守り真面目に学ぼうとする誠実さがあったか	60	8	0	0	94.1	
・任されたことに対し責任をもって遂行しようとしたか	57	10	1	0	91.2	
・熱意をもって意欲的であったか	46	22	0	0	83.8	
・しっかりとした幼児観をもって臨んだか	22	42	4	0	63.2	
2.研究態度						77.8
・研究心は旺盛で、子供の発達に役立つ研究をしたか	13	46	9	0	52.9	
・子供に興味深くなるよう努力したか	60	8	0	0	94.1	
・子供と保母とのかかわり方をよく観察したか	61	6	1	0	94.1	
・子供一人一人、また集団の中の子供の観察はよく出来たか	44	24	0	0	82.4	
・問題意識をもって質問をよくしたか	25	34	9	0	61.8	
・指導を受けた事に対して毎日の反省・評価を行い翌日に生かしたか	43	23	1	1	81.3	
3.人となり						84.1
・明朗で素直であったか	52	14	1	1	88.1	
・感情の安定を保ったか	52	12	3	1	86.6	
・機敏に行動出来たか	19	45	3	1	61.9	
・自分に厳しく忍耐と謙虚さがあったか	36	28	3	1	74.6	
・すべてのことに思いやりと親切心をもって当たったか	55	12	0	1	91.0	
・良識あることばづかい、挨拶が出来たか	50	18	0	0	86.8	
・立ち居振舞いは礼儀正しかったか	41	27	0	0	80.1	
・服装・身だしなみは、清潔で質素で働きやすいものであったか	66	2	0	0	98.5	
・ものの扱いも丁寧であったか	53	15	0	0	89.0	
4.人間関係						87.7
・実習生としての礼節を保ったか	53	15	0	0	89.0	
・指導・助言・指示・方針に素直に従い協力的であったか	56	12	0	0	91.2	
・指導・助言を自分から積極的に受けようとしたか	50	18	0	0	86.8	
・連絡を密にして協調性があったか	40	24	4	0	76.5	
・言い訳や人に転嫁する事はせず謙虚で忍耐があったか	53	12	2	1	88.1	
・実習生同士相互に協力的であったか	31	9	0	28	88.8	
・実習生同士、固まっておしゃべりすることを慎んだか	36	5	0	27	93.9	
5.勤務状況						79.4
・打ち合わせの時の諸注意は守ったか	64	4	0	0	97.1	
・勤務時間はよく守ったか	62	6	0	0	95.6	
・事務処理は敏速であったか	24	31	3	10	68.1	
・事務処理は正確であったか	28	29	0	11	74.6	
・事務処理は関心をもって当たったか	29	26	2	11	73.7	
・指導案は毎日出したか	30	4	9	25	74.4	
・日誌は毎日出したか	64	2	2	0	95.6	
・提出物の整理の仕方はよかったか	36	31	1	0	75.7	
・提出物の誤字脱字にきをつけたか	22	37	9	0	59.6	
6.環境整備						76.0
・安全管理・子供を危険から守る配慮はあったか	50	17	1	0	86.0	
・子供の活動を助長する事を考えて整備したか	39	26	3	0	76.5	
・清潔であたたかい雰囲気作りに努めたか	59	9	0	0	93.4	
・通風・採光・温度・湿度に留意したか	19	36	13	0	54.4	
・遊具・教材・用具等の設備、点検がよく出来たか	18	39	10	1	56.0	
・それらの後始末もよく出来たか	53	13	1	1	88.8	
・園内外の清掃も積極的に丁寧に出来たか	43	17	7	1	76.9	

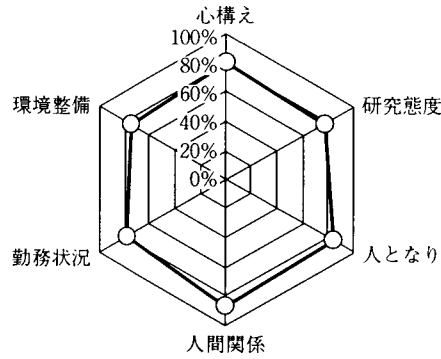


図8 自己評価Ⅱ－実習態度

■はい ■どちらともいえない ■いいえ □無回答

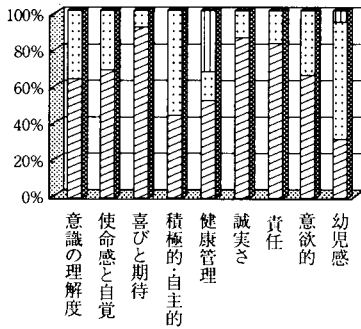


図9 実習態度－心構え

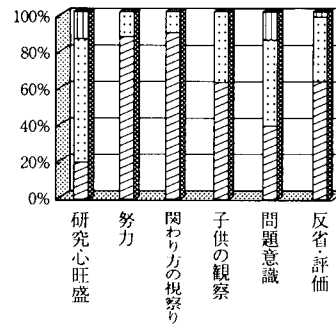


図10 実習態度－研究態度

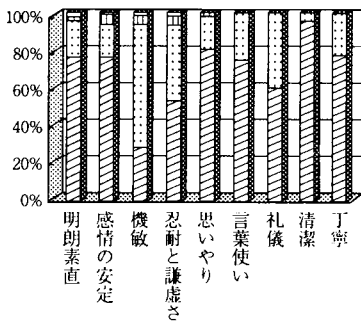


図11 実習態度－人となり

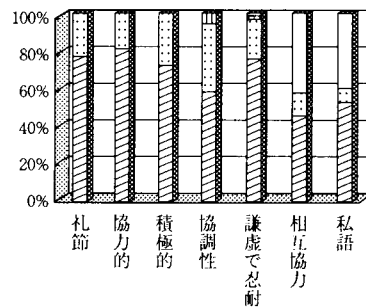


図12 実習態度－人間関係

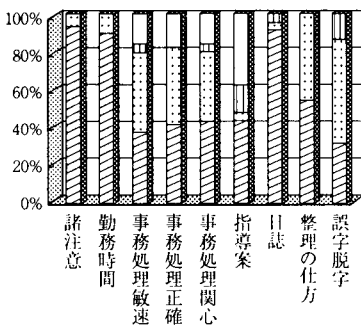


図13 実習態度－勤務状況

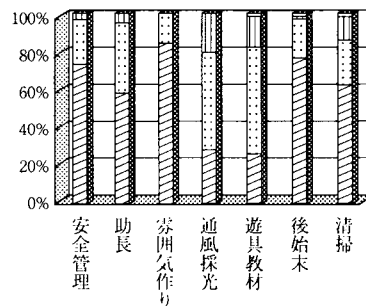


図14 実習態度－環境整備

	56 %
4. 誤字、脱字に気をつける	59 %
5. 健康管理に留意し体調を良くする	
	61 %
6. 問題意識を持ち質問をする	61.8%
7. 機敏な行動	61.9%
8. しっかりとした幼児観を持つ	63.2%

以上の8項目において評価値が低かった。どの項目ひとつ取ってもその時注意したら出来るという事ではない。普段の日常生活から意識づけに心掛け一步一步積み重ねていく必要がある。

2. 実習能力

表4-2、図15は、実習能力の7つの中項目の評価値を表と図にしたものである。更に実習能力の項目を図16－保育技術 a 子供への態度、図17－保育技術 b 子供の理解、図18－指導技術、図19－指導計画 a 目標とねらい、b 発達段階、図20－指導計画 c 計画の準備、図21－指導計画 d 主活動として表した。

評価値の高かった項目の順位は、以下の様であった。

1. 子供の中に溶け込んだ	96.3%
2. 子供にすぐ懐かれた	91.2%
3. 子供と同じ目の高さで接した	90.4%
4. どんな事も嫌がらず進んで世話をした	88.2%
5. どの子にも公平に接した	85.3%
6. 子供の交遊関係に早く気づいた	82.4%
7. 遊び特に自由遊びの指導が良く出来た	80.1%
8. 子供にはわかり易く丁寧な話し方をした	80.1%

次に評価が低く実習能力における課題と思われる事は、

- ・指導計画立案時には、保育内容の各分野を考慮すること
- ・登園、降園時の視診を注意深く
- ・全体指導時に子供の興味を繋ぎ集中させる技術の研究
- ・ピアノやオルガンの伴奏の技術
- ・子供に引きずられないリードの仕方
- ・子供一人ひとりの可能性を伸ばす配慮の仕方
- ・子供の発達段階の理解

以上のような内容が上げられた。

更に注目したい事は、指導に関する項目、指導計画 d 主活動、ピアノやオルガン伴奏、指導計画 c 計画の準備、指導計画 a 目標とねらい・指導計画 b 発達段階、において無回答があった。この事は、実習中これらの内容を経験しなかった事である。詳細をみると、指導案の立案をしなかった者は、長野市以外の公立保育園で9人、私立保育園で6人いた。また、主活動を経験しなかった者は、長野市以外の公立で13人、私立で11人いた。

何故指導案の立案、主活動を経験出来なかったのか推察してみると以下の様な事が考えられる。

- ・責任実習を任せるだけの力量が無い。
- ・指導案を立案し子供を指導する事より対象者を理解する事を中心にした方が良い。
- ・保育所は0歳児から5歳児までが生活する所なので、きめ細かな配慮の仕方を指導者の助手的な立場で学んで欲しい。

以上の様な事が考えられるが、それと合わせて養成校としての巡回指導のあり方にも問題があるように思われる。すなわち、巡回指

表４－２ 自己評価Ⅱ－実習能力

項 目	回 答				評価値	中項目別 評価値の 平均
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答		
1.保育技術						
a 子供への態度と接し方						78.3
・優しさや厳しさをもち真の愛情を示したか	49	19	0	0	86.0	
・子供の中へ解け込んでいったか	63	5	0	0	96.3	
・子供にすぐ懐かれたか	56	12	0	0	91.2	
・子供に親しまれ、尊敬されたか	37	29	2	0	75.7	
・どの子供にも公平に接したか	51	14	3	0	85.3	
・名前は早く覚えたか	39	22	7	0	73.5	
・どんな事も嫌がらず進んで世話をしたか	52	16	0	0	88.2	
・子供に引きずられず、よくリード出来たか	10	47	11	0	49.3	
・登園・降園時の視診はよく出来たか	13	38	17	0	47.1	
・子供と同じ目の高さで接したか	55	13	0	0	90.4	
b 子供の理解と把握の深まりについて						65.4
・子供の発達段階をよく理解して臨んだか	20	38	10	0	57.4	
・子供の興味の方向を見抜いたか	24	35	8	1	61.9	
・子供の特技を見抜いたか	29	35	4	0	68.4	
・子供の個性を見抜き、一人一人の可能性を伸ばそうと配慮した	17	43	8	0	56.6	
・子供の要求を子供の表情や態度から感知出来たか	26	40	2	0	67.6	
・特殊な傾向を早く見分けたか	24	38	6	0	63.2	
・子供の交友関係に早く気づいたか	46	20	2	0	82.4	
2.指導技術						62.2
・個別指導で一人一人の子供に目が行き届いたか	19	37	11	1	56.0	
・全体指導で子供全体の興味をつなぎ集中させる事が出来たか	13	38	16	1	47.8	
・グループ活動、集団活動の指導はよく出来たか	16	37	12	3	53.1	
・あそび特に自由あそびの指導はよく出来たか	43	23	2	0	80.1	
・日常生活指導、特に基本的生活習慣の指導はよく出来たか	33	32	3	0	72.1	
・実習生としての立場を意識してよく指導出来たか	16	40	11	1	53.7	
・子供にはわかりやすく、丁寧な話し方をしたか	43	23	2	0	80.1	
・声調はよかったか	34	23	10	1	67.9	
・ピアノやオルガン伴奏はよかったか	14	16	16	22	47.8	
・手遊びなどの準備はよかったか	35	23	6	4	72.7	
・絵本や紙芝居、指人形等の扱い方は適切であったか	40	24	2	2	78.8	
・ゲームやごっこあそびの指導研究は充分にしてあったか	10	37	18	3	43.8	
・園庭遊具、室内遊具の一つ一つの指導はよく出来たか	18	37	11	2	55.3	
3.指導計画						70.8
a 目標とねらいの理解が適切であったか	31	28	0	9	76.3	
その達成が出来たか	20	37	2	9	65.3	
b 内容は子供の発達段階、年齢、興味に即していたか	26	30	2	10	70.7	62.1
内容は保育内容、五領域の各分野を考慮したか	7	36	15	10	43.1	
内容は園の行事を配慮したか	31	22	5	10	72.4	
c 計画の準備						62.9
・立案の時間の配分等適切であったか	25	21	6	16	68.3	
・立案は慎重であったか	24	25	3	16	70.2	
・立案は個性的で創造的であったか	12	34	6	16	55.8	
・立案は計画性に富み、緻密であったか	11	35	6	16	54.8	
・立案は柔軟性をもっていたか	17	28	8	15	58.5	
・立案にそっての子供の活動を充分予見したか	13	36	4	15	58.5	
・指導の留意点は明確になっていたか	14	32	8	14	55.6	
・教材研究と準備はよく出来ていたか	26	19	8	15	67.0	
・計画にそって事前に教材を使ってしてみたか	33	16	4	15	77.4	
d 主活動						60.8
・導入の動機づけがよく出来たか	13	24	7	24	56.8	
・導入は適切であったか	12	27	5	24	58.0	
・展開の技術は適切であったか	8	31	5	24	53.4	
・子供の活動を自発的に展開させたか	24	17	3	24	73.9	
・子供の発言や行動を有効に取り上げたか	26	14	4	24	75.0	
・現場の状況判断が明確であったか	12	26	6	24	56.8	
・臨機応変に処理が出来たか	8	27	9	24	48.9	
・活動の結末の処理は適切であったか	17	19	8	24	60.2	
・子供に次の活動への期待をもたせる指導であったか	15	25	3	25	64.0	

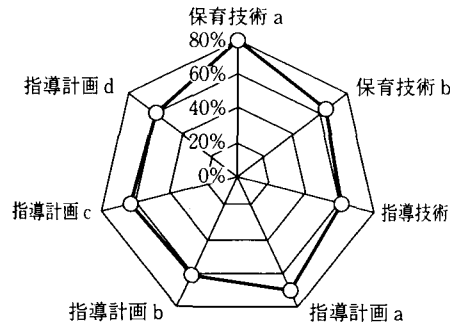


図15 自己評価Ⅱ－実習能力

■はい ■どちらともいえない ■いいえ □無回答

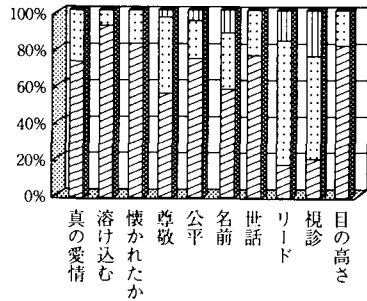


図16 実習能力－心構え

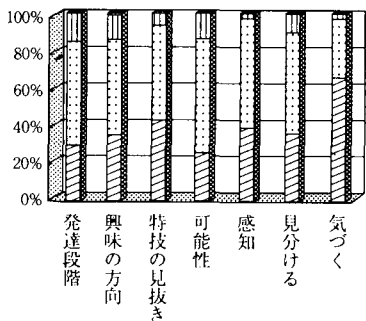


図17 実習能力－研究態度

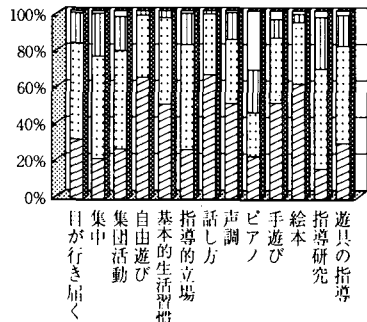


図18 実習能力－人となり

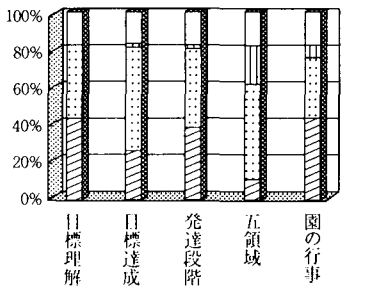


図19 実習能力－人間関係

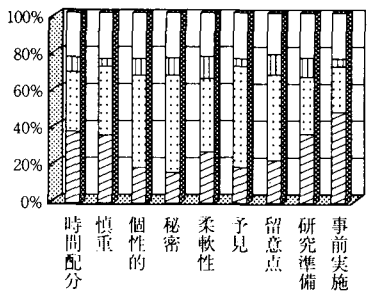


図20 実習能力－勤務状況

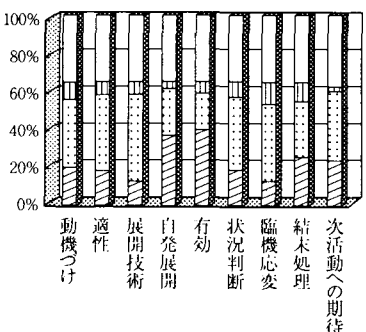


図21 実習能力－環境整備

導園を決める際、長野県内私立保育園については全園巡回し、県内外を含めて多地域に広がる公立保育園については年ごとに重点園を決め巡回指導を行ってきた。

今までは、入学してくる学生も長野県内北信地方を中心にある程度地域が限られていたが、最近はその地域もだんだん広がってきている。その分だけ手が回りかねているのが現状である。

実習に関しての共通理解を深め、実習生にとって一番ふさわしい実習内容を展開し、ご協力、ご指導頂ける様、実習生がお世話になっている保育園は出来るかぎり巡回し指導していく必要がある。

おわりに

保育実習Ⅰ（保育所）での実習内容は、保育所独自の機能を知り、子供の理解に努め、保育者としての対応を見たり、実践したりすることを目標としなければならない。それには保育所の特色、実情にも合わせなければいけないが、実習の内容は、見学・観察から段階を追って進み、少なくとも責任実習を一部体験出来るよう具体的な要請をする必要がある。

次に話す力、書く力の不足についての対応は、５回（約８時間）の事前指導では「送り出す側」の責任はとうてい果たす事が出来ない。

日常での講義や演習において保育所実習との関連性を学生に理解、認識させ意識づける

ことが必要である。

教科目担当者には、話す力、書く力がつくような授業内容と具体的な対策を持って授業を進めてもらえるような働きかけが急務である。

今回の調査は、春期実習（１年次に実施）について調査報告をした。今回の調査報告より以下の事を提言したい。

現在、任意で行っている自主的体験学習を保育実習Ⅰの中に含めて体系づけ実施する。これにより、実習園選定から実習園決定、実習への具体的準備等においても実習に向けての動機づけが出来、スムーズに実習に入れるのではないだろうか。

最後に、今回の調査は春期実習について限られたごくわずかの資料からの調査報告をしたが、この方法が適正だったのかも含めて批判を頂きたい。

次回は実習としては最後のまとめとなる夏期実習に注目し報告したい。

参考文献

- 森里美（1985）「教育・保育ハンドブック」コロニー印刷
- 日名子太郎（1987）「保育のシステム化」明治図書
- 醍醐定徹（1988）「実習の手引き」建帛社
- 日本保育学会（1987）「保育者養成」フレーベル館
- 岡田正章（1989）「保育実習」医歯薬出版
- 現代教職研究会（1989）「教師教育の連続性に関する研究」多賀出版
- 待井和江（1992）「保育実習」ミネルヴァ書房
- 米山岳廣（1994）「保育実習の探究」文化書房博文社